

2014 年度第 2 回にいがた摂食嚥下障害サポート研究会講演会開催報告

新潟大学大学院医歯学総合研究科 共催
一般社団法人 新潟県歯科衛生士会 後援
新潟県歯科医師会 後援
新潟県言語聴覚士会 後援

講演名 「地域のこれからの考える」
講演者 東京医療保健大学 小城明子 先生
北海道医療大学 飯泉智子 先生
新潟医療センター 道見 登 先生
柏崎特別支援学校 古野芳毅 先生
新潟県歯科医師会 高井 晃 先生

日時 平成 26 年 11 月 30 日（日） 10 時～15 時 50 分（懇親会 15 時 50 分～17 時）
場所 新潟大学歯学部講堂
参加者数 85 名
参加企業 8 社

概要

本講演会では、「地域のこれからの考える」と題して、管理栄養士、言語聴覚士、歯科医師、特別支援学校教諭といった、さまざまな職種の講師にご講演いただいた。

小城先生には、嚥下調整食の分類の課題として、①患者が受ける医療の質の確保と、②医療や福祉機関・職種間の連携の効率化をあげていただいた。また、検査食は、提供できる食事と同じ形態・性状の食べ物とすることで、提供可能な許容範囲がよりわかりやすくなるとともに、食事本来がもつ楽しみにつながる可能性があることを解説いただいた。

飯泉先生からは、まず、摂食嚥下リハビリテーションの現状について説明があった。摂食嚥下機能の特徴としては個人差が大きいことと、高い順応性があることが挙げられていた。次に摂食嚥下障害の評価時の観察項目について解説された後、運動障害部位別の訓練法についての紹介していただいた。

昼食休憩時間には、企業展示会場で、活発な情報交換が行われた。

午後の部では、道見先生から、まず地域病院の現状と病院歯科の現状についての説明があった。限られた人的資源の中で地域での摂食嚥下障害患者に対するアプローチは多職種ネットワークが重要であり、その多職種連携の中心的役割を担うことも歯科関連職種の重要な役割であると自らの症例を交えながら説明していただいた。

古野先生からは、8 月に実施している「ばりあふりーお食事会」と特別支援学校についての紹介があった。後者については、教員の食事への思いや、学校における経管栄養（医療的ケア）について解説があり、ばりあふりーお食事会の参加レポートと経管栄養をしている児童の一日を紹介する資料を配布していただいた。

その後、嚥下障害専門医育成に向けた取り組みについて、井上先生に概説いただき、初年度参加の高井先生には、嚥下障害患者の症例を中心としてご報告いただいた。

総合討論では、講師 6 名が一堂に会し、講師間および参加者間ともに活発な討論が行われた。

講習会終了後には、隣接する展示会場にて懇親会が開催された。参加者は 53 名であった。展示企業からの商品説明や、内視鏡カメラのデモなども行われ、和やかな雰囲気の中、貴重な情報交換を行うことが出来た。

参加者によるアンケート結果 (有効回答数 33 名)

1. 参加者の性別

①男性 17 名 ②女性 14 名 ③無回答 2 名

2. 参加者の年齢層

①20 歳代 4 名 ②30 歳代 13 名 ③40 歳代 8 名 ④50 歳代 6 名
⑤60 歳代 1 名 ⑥無回答 1 名

3. 参加者の職業

①学生 4 名 ②医療関係者 27 名 ③無回答 2 名

4. 今回の講演会は有意義なものでしたか

①まったくそう思う 72.7% ②まあまあそう思う 24.2% ③どちらとも言えない 0%
④あまりそう思わない 0% ⑤全くそう思わない 0% ⑥無回答 3.0%

5. 今回の講演会はあなたの興味に対して適切でしたか

①まったくそう思う 51.5% ②まあまあそう思う 33.3% ③どちらとも言えない 9.1%
④あまりそう思わない 0% ⑤全くそう思わない 0% ⑥無回答 6.1%

6. 講演内容の難易をどう感じましたか

①非常にわかりやすかった 39.4% ②まあまあわかりやすかった 51.5%
③どちらとも言えない 6.1% ④あまりわかりやすくなかった 0%
⑤まったくわからなかった 0% ⑥無回答 3.0%

7. 今後このような主旨の講演会を開催することについては

①非常に賛成する 84.8% ②まあまあ賛成する 12.1% ③どちらともいえない 0%
④あまり賛成しない 0% ⑤まったく賛成しない 0% ⑥無回答 3.0%

8. その他の意見

- ・積極的に研修会に参加しなければいけないと感じた
- ・例えば摂食嚥下リハの道に進もうとしている学生向けの講演会を開催して欲しい

- ・ 今後は地域ケアがメインとなる中で、トロミ剤や配食サービスは下装器具と異なり行政からの公的措置を受けられない。よりよい在宅サポートをしたいが、年金暮らしの高齢者世帯に積極的にアピールするのが心苦しい。そのため、権威のある大学病院から市行政に働きかけてもらえないか。栃木県大田原市では配食サービスが一律 200 円で受けられるようになったと聞いた。地域歯科医院で、嚥下サポートやVEを行っているという情報が分かるようなネットワーク、Web などがあると現場と地域をつなげやすいと感じている。
- ・ 病棟勤務だが、作り手である栄養科や歯科の介入があればいいのにと感じている。今回その思いは強くなった。入院時だけでなく退院時の摂食に関する情報提供がもっとできたらよいと思った。
- ・ 研修会の内容をネットで閲覧したい
- ・ ばりあふり～お食事会、ぜひ参加したい。柏崎市でも開催できないか？
- ・ 県立特別支援学校（盲）の教員だが、現在の勤務先対象児への摂食指導のアドバイスをいただきたく参加した。
- ・ VF 用のバリウムゼリーが販売されるようになると良い。
- ・ ST の考え方がわかり、今後の往診時に役立つと思った。今後も多職種連携のために、このような研究会をお願いします。道見先生のように連携をとられている方は「すごい！」と思う。できることから始めようと思った。

講演会風景

